

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 677 号	氏名	中沢 将之
学位審査委員	主 査	大園 恵幸	
	副 査	酒井 英樹	
	副 査	川上 純	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、腹膜透析の重要な合併症である腹膜線維症進展におけるレプチンの関与を腹膜線維症マウスモデルを用いて明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 研究方法として、C57BL/6 マウスに 0.05%chlorhexidine gluconate (CG) を腹腔内に投与して腹膜線維症モデルを作成した (CG 投与群)。CG 投与開始後 21 日目に採取した腹膜において、腹膜肥厚面積、線維化、血管新生等のマーカー、レプチンおよびレプチン受容体を免疫組織化学的に検討を行った。さらにレプチン欠損マウスにおける CG 投与群とレプチン持続皮下投与群において検討し解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、CG 投与群及びレプチン持続皮下投与群では、著明な腹膜肥厚とレプチン及びレプチン受容体発現の増強を認めたが、レプチン欠損マウス CG 投与群では、腹膜線維化およびレプチン発現は有意に抑制される結果より、腹膜線維化におけるレプチンの関与を明らかにし、今後の腹膜線維症研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は腹膜透析合併症研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			